

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 8 月 31 日

【評価実施概要】

事業所番号	4090100126		
法人名	株式会社 さわか俱樂部		
事業所名	グループホーム みどりのき		
所在地	北九州市門司区大久保1-9-2 〒801-0883 (電話) 093-321-8800		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年8月31日	評価確定日	平成21年9月14日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人の社長が社会貢献を行いたいという思いの中、門司区の公募により開設されたホームである。リビングは広く開放感があり、自然換気と程よい採光によって居心地の良い空間となっている。利用者同士のさりげない気づかいや何気ない会話、帰宅する職員に対して「行ってらっしゃい。」などの言葉かけなどから、共に支えあいながら生活している様子が伺える。法人としての勉強会や研修参加、資格取得にむけた支援体制が確立されている。また、サンクスカードを利用し、職員間で口にして言い難い感謝の言葉を綴ることにより、個々の職員に対しての刺激と職員間の連携を生むなどの効果を生んでいる。開設して1年目のホームであるが、地域との更なる連携の基、利用者の視点にたった体制づくりへの取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20 年 11 月 1 日						
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人				
職員数	8人	常勤	8人	非常勤	0人	常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	1階建ての～	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	35,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,500円程度	

(4) 利用者の概要(7月12日現在)

登録人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名				
要支援1	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 72歳	最低	67歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・掖済会病院 ・くにひろ社/木クリニック
---------	----------------------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回が始めての外部評価の受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価についての説明を行い、職員が記入した自己評価を参考にしながら管理者がまとめるなど、職員がかかわっての自己評価への取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等の参加により2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況の説明や報告の他に、地域の情報や献立のアドバイスを得たり、運営全般に関して意見が出されるなど、意見交換が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけ、運営推進会議時や担当者会議時、その都度の電話連絡等を通じて、様々な内容についての説明・報告を行い、家族の意見や思いの表出に努めている。出された意見等は、職員間で協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月の外出や外食、カラオケ店の利用、地域で行われるふれあい食事会への参加、小学校運動会の見学、高校生の訪問、地域の子供たちが遊びに来るなど、日常のかかわりを通じた交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念とは別に、開設前に、 系列グループホームと協議しながら、グループ ホーム独自の理念の作成がある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、入職時の説明、及び、毎朝 の唱和を通じて、理念の浸透を図る取組みがあ る。職員のさりげない声かけにより、日常生活 の中で利用者の能力を引き出すような工夫があ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	毎月の外出や外食、カラオケ店の利用、地域 で行われるふれあい食事会への参加、小学校運 動会の見学、高校生の訪問、地域の子供たちが 遊びに来るなど、日常のかかわりを通じた交流 が行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	外部評価についての説明を行い、職員が記入 した自己評価を参考にしながら管理者がまとめ るなど、職員がかかわっての自己評価への取組 みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者が募っての2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況の説明や報告の他に、地域の情報や献立のアドバイスを得たり、運営全般に関して意見が出されるなど、意見交換が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加があるも、運営推進会議以外の行政担当者とのかかわりは無く、今後の課題である。		運営推進会議時を利用して、成年後見制度等についての講師依頼を行ったり、行事案内を送付して行事への見学を促すなど、具体的な連携への取組みを期待します。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者が1名、申請中が1名いるなど、制度の適切な活用へ取り組んでいる。職員、家族への制度の説明などへの取組みは、今後行っていく予定である。		運営推進会議や家族会等を利用して、行政担当職員や専門職による講話を開催するなど、制度の正しい理解と周知に努められることを期待します。また、職員全員が支援に必要な知識の習得と、必要時に対応できるような指導体制への取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、運営推進会議時や担当者会議時、その都度の電話連絡等を通じて、様々な内容についての説明・報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、運営推進会議時や担当者会議時、その都度の電話連絡等を通じて、意見や思いの表出に努めている。出された意見等は、職員間で協議するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した場合は、ボランティアから入り、まずは利用者とのかかわりを多くもつことから始めている。夜勤は、2ヶ月目から2人体制で1ヶ月間従事するなど、利用者の精神面を配慮した取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、年齢・性別等での制限は一切行っていない。併設の有料施設と一体的な募集であり、その時々にあった人材や適性を考慮しての採用である。資格取得に向けてのバックアップ体制が確立されており、研修費用を法人が半額負担するなどの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発活動等についての勉強会などへの取り組みはまだ行われておらず、今後の課題である。		認知症高齢者の人権及び幅広い視点での人権についての勉強会への取り組みや、運営推進会議等を利用した啓発活動など、職員一人ひとりの人権意識を喚起する取り組みに期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会に参加したり、各種研修や勉強会の案内を提示して希望を募るなど、勉強会や研修への参加の機会がある。研修費用を法人が半額負担するなど、質の向上への取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の系列事業所との交流・連携は行われている。グループホーム協議会へ加盟しているも、グループホーム協議会やブロック主催の勉強会等への参加はこれからである。		グループホーム協議会やブロックで行われる研修等への一般職員の参加が図れるような体制づくりに取り組まれ、他のグループホーム職員との交流を通じて、質の向上に向けての情報交換、職員個々の気付きやモチベーションをあげる機会として活用されることを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用や入居前の面談等を通じて顔見知りとなり、入居後は職員が多くかわるなど、利用者の不安を軽減し、徐々に馴染めるような取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性の入居者からは家長としての風格と威厳を学び、女性の入居者からは食事の味付けや食器の洗い方を学ぶなど、生活場面を通じて学びを得ている。利用者同士での気遣いや職員に対する声かけの言葉等より、お互いが尊重し支えあっている関係が伺える。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて、利用者の希望や意向の把握に努め、家族面会時や家族会時、運営推進会議、担当者会議などを通じて、家族の意向等の把握に努めている。把握した情報は、フェイスシートやセンター方式に記入するなど、情報共有を図るための取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報収集、日常のかかわり等を通じて、利用者・家族の思いや希望を把握し、介護計画書への反映がある。月1回のカンファレンス、3ヵ月毎の担当者会議にて関係者全体で協議して、介護計画が作成されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヵ月毎及び状態変化に伴う介護計画の作成 が行われている。また、月1回のカンファレン ス時に、職員の気づきや意見を出し合うなど、 全利用者の状況の確認と情報交換が行われてい る。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	地域食事会への参加、外食やカラオケ店の利 用、家族対応が難しい場合の専門科への受診対 応など、状況に応じた対応が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に説明し、利用者・家族が、入居後の 主治医を選択している。今までのかかりつけ医 への受診は家族対応であるが、利用者のかかり つけ医による往診が行われており、また、専門 診療科との連携を図るなど、適切な医療受診へ の支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	家族の意思を尊重しつつ、対応していきたい との管理者の意向であるが、重度化に対する指 針の作成や予めの利用者・家族の意向の把握 は、これからである。		重度化に対する体制づくり等について、職 員ならびに法人と協議し、事業所としての重 度化や看取りについての方針の作成に着手さ れると共に、本人・家族の意向等の把握と情 報の共有への取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩として意識して、利用者の視線 に合わせた丁寧な声かけが行われていた。介護 記録等は、適切に保管・管理されるなど、個人 情報に配慮した対応がなされていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を始めるタイミングや食事にかかる時 間、日中の過ごし方など、利用者一人ひとりの 生活パターンに合わせた支援が行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	テーブル拭きや食器並べ、下膳、食器洗いな ど、利用者の出来る事を活かしながらの支援が 見受けられた。キッチンで調理する際の音や匂 いが五感へ働きかけ、食事時間が楽しみとなる ような工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	月曜日から土曜日の間で、毎日の入浴が可能 である。1週間に3回の入浴を目途に、本人の希 望や状況に応じた支援がある。お湯は、利用者 毎に入れ替えるなど、入浴を楽しむための支援 がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	テーブル拭き、調理の手伝い、食器並べ、下 膳、食器洗い、花の水やり、新聞読み、折り紙 など、利用者の出来る事等を把握して、介護計 画書に取り入れての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	雛人形展に出かけたり、地域のふれあい食事 会への参加、外食、カラオケ店の利用など、戸 外に出ることを意識しての支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	ホーム玄関は、暗証番号式のキーロックであ る。		施錠することの弊害について今一度職員の理 解を図り、施錠することを常態化せず、利用者 個々の外出傾向の把握と職員配置や勤務体制等 の工夫、地域や併設施設も含めた更なる連携 等、利用者の安全を確保しながら開錠に向けて の支援体制への取り組みを期待します。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	併設有料施設と合同で、年に2回の避難訓練 の実施がある。併設有料施設との連携は図られ ているも、災害時等における地域との連携・協 力体制づくりへの取り組みはこれからである。		運営推進会議時等を利用しての避難訓練へ の働きかけや、非常災害時の連絡体制の構築 から始められるなど、地域との相互連携・協 力体制づくりへの取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは利用者の希望を基に、地域行事で の献立やインターネット上での献立を参考に、 ホームで調理している。食事摂取量・水分摂取 量の把握を行い、利用者の状況により、刻んだ りお粥にするなどの対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く開放感があり、自然換気と程 よい採光、季節を意識した飾りつけなど、自然 とくつろげる空間となっている。利用者同士の さりげない気づかいや仲の良い利用者同士がく つろぐ様子からも、居心地の良い空間であるこ とが伺える。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、整理ダンスや写真、趣味の道具や 本などの馴染みの物や使い慣れた物が持ち込ま れており、利用者の個性が伺える居室となっ ていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号